

2009年12月20日 クリスマス礼拝メッセージ

聖書箇所：ルカの福音書2章1～20節

説教題：救い主が来られました

いつもであれば、これから聖書を読むところですが、でも、きょうはクリスマス礼拝ですので、ちょっと違う工夫をしました。週報を開いていただくと、左側のページに三つの質問が印刷されています。この後、聖書を読みますので、聖書のことばを聞きながら、質問の答えを考えてみてください。三つの質問とはこうです。

- ①生まれたばかりの赤ちゃんは、何に寝かせられましたか。
- ②この赤ちゃんは誰でしたか。
- ③羊飼いたちが聞いた内容はうそでしたか。それとも本当でしたか。

<聖書朗読>

さあ、どうですか。これから、ひとつひとつ答えを捜していきましょう。

もう少しでクリスマスがやって来ます。クリスマスになるとケーキを食べたりプレゼントをもらったりしてお祝いします。どうしてお祝いをするのでしょうか。実はちゃんと理由があります。きょうはせっかく教会に来てくださったのですから、クリスマスっていったい何のことなのか、そのことを覚えて帰ってくださいね。

(1) 飼い葉おけに寝かせられた方

いま聖書を読みましたが、その中でひとりの赤ちゃんが生まれたと書かれていました。いったいいつ頃のことかということ、皆さんが

生まれるずっとずっと前の大昔、今からおよそ二千年前のことです。イスラエルという国の小さな町で生まれました。

皆さんは自分がどこで生まれたか聞いたことがありますか。最近では自分の家で赤ちゃんを産む方もいますが、ほとんどは病院で産みます。皆さんも病院で生まれたという人が多いでしょう。

さて聖書に出てきた赤ちゃんは、ではいったいどこで生まれたのでしょうか。6, 7節を読んでみます。「ところで、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼い葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」

マリヤというのは、赤ちゃんのお母さんです。マリヤは旦那さんと一緒に旅行をしていましたが、その途中で赤ちゃんが生まれそうになりました。でもホテルはどこも満員で泊まる場所がありません。当時は病院もありませんでした。そこで、結局どこに行ったのかというと、家畜小屋でした。ロバとか羊とかが寝泊まりしている小屋です。そこで赤ちゃんが生まれました。そこはきれいな場所ですか。そうではないですね。いろいろなにおいもします。すきま風も吹いています。普通、産まれたばかりの赤ちゃんは小さなベッドに寝かせます。ところが、家畜小屋にはそんなものはありません。困った、どうしようと思いました。あたりをみまわしたら、飼い葉おけしかありません。飼い葉おけというのは、家畜のえさを入れる箱のことです。家で

猫とか犬を買っている人もいるでしょう。犬や猫のえさは何に入れますか。お皿に入れて食べさせますね。ロバや羊はからだが大いなので、少し大きめの箱にえさを入れて食べます。その箱のことを飼葉おけと言います。

お母さんのマリヤは生まれた赤ちゃんを飼葉おけに寝かせました。そうすると最初の質問、「生まれたばかりの赤ちゃんは、何に寝かせられましたか。」この答えは、「飼葉おけ」です。

この飼葉おけ、きれいでしょうか、それとも汚いでしょうか。どちらだと思いますか？私が生まれ育った家では牛を飼っていました。やっぱり飼葉おけが置いてあったのでよく覚えています。飼葉おけはくさいのです。赤ちゃんを寝かせるには、ちょっと考え込んでしまうくらいです。でもそれしかなかったので、飼葉おけに寝かされました。

(2) 救い主と呼ばれる方

さて二番目の質問に移ります。生まれた赤ちゃんはいったい誰なのでしょう。こんな汚いところで産まれたのですから、普通は有名でない人に決まっています。ところが、羊飼いが聞いたのは次のような知らせでした。11節。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」飼葉おけに寝かせられている赤ちゃんは救い主ですとされています。「主キリスト」というのは、神である方が救い主となって、私たちに来られたことという意味です。

ところで、救い主ってどんな人なんだろう。皆さんは、道に迷ったことはなかったですかデパートとか、テーマパークとか人が

いっぱいいる所に家族と一緒に出かけたいけれど、途中ではぐれてしまう。そうしたらどうなりますか。泣きたくなりますよね。

初めての町に行ってもどっちの道に行けばいいのかわからなくなることがあります。この道なら大丈夫と安心していたら、急に目の前に壁ができていたり、道が途中で切れてしまったりすることもあります。そのうちだんだん日も暮れてくると、本当に泣き出してしまいます。

でもそんなときに、道に迷ったときに、「〇〇君、〇〇ちゃん！」と迎えに来てくれる人がいたらどうですか。こんな嬉しいことはないですよ。その人は私たちを見つけてこう言ってくれるのです。「よかった。ずっとあなたのことを捜していたんだよ。見つかって本当に嬉しい。さあ、これからは私の手を離さないで、一緒に歩いていこう。わたしが一緒だから、もう絶対に迷うことはない。」

救い主というのはそんなことをして下さる方のことを言います。二番目の質問の答えは、「救い主」あるいは「主キリスト」ですね。

(3) 聞いたことは全部本当だった

では三番目の質問。羊飼いたちは、「きょうダビデの町で救い主が産まれました」と聞きました。でも嘘かもしれません。本当かどうか、みんなで確かめに行くことにしました。そうしたらどうなりましたか。20節にこうあります。「羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだった」とあります。

そうすると三番目の質問の答えは、「本当だった」になります。

どうしてクリスマスをお祝いするのか、わ

かりましたか。私たちを救ってくださる方が産まれたからです。そしてそれは嘘とか作り話ではなく、本当のことなので、私たちは心から喜ぶことができます。

皆さんも、困ったとき、悲しくなったとき、迷ったとき、大事なものをなくしてしまったとき、大切な友達と別れなければならなくなったとき、もう自分の力では前に進めない、誰も助けてくれない。そんなときに思い出してください。自分は決してひとりぼっちではない。私のすぐそばに救い主、イエス・キリストと呼ばれる方がおられます。その方は私たちの方に手を差し伸べてくださり、この手をつかみなさいと言ってくださいます。本当かなと疑うかもしれません。助けた後からお金をよこさないなんて言うのではないか。そんなふうに疑いたくもありません。

でもこの方は神であるのに、産まれたとき、きたない飼料おけに寝かされました。この方は私たちを救うために、ご自分のいのちを十字架で捨ててくださいました。神である方なのに、そこまでして下さったのです。私たちに何かよこさないと言うような方では決してありません。私たちはその方の手を握るだけでよいのです。「神さま。あなたが救い主であることを信じます。ですから私たちを救ってください。」そのように言うだけで、この方は私たちを救ってくださいます。

神さまが私たちのために、こんなすばらしい贈り物をして下さいました。だから私たちはクリスマスをお祝いするのです。

神さまの恵みを思い起こしながら、お祈りしましょう。